

大阪インターナショナル・チャーチ

ゲストスピーカー：ブラッドフォード・ハウディシエル

2023/04/09

説教題:「キリストは確かによみがえられました!」

鍵となる聖句:マタイの福音書 28 章 5-7 節 – 「すると、御使いは女たちに言った。「恐れてはいけません。あなたがたが十字架につけられたイエスを捜しているのを、私は知っています。<sup>6</sup>ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらんください。<sup>7</sup>ですから急いで行って、お弟子たちにこのことを知らせなさい。イエスが死人の中からよみがえられたこと、そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれ、あなたがたは、そこで、お会いできるということです。では、これだけはお伝えしました。」

リーダー： Christ is risen!

会衆の返事： He is risen indeed!

リーダー： キリスト復活! (キリストはよみがえられました!)

会衆の返事： 実に復活! (まことに、よみがえられました!)

皆さん、おはようございます。

「キリスト復活!」という表現は、人類史上最も重大な出来事である、主イエス・キリストの墓からの復活を祝うべく集まったクリスチャンたちがイースターの朝によく使う挨拶です。2000年前の最初のイースターの朝、女たちがイエスの墓を訪れたところ、墓は空っぽでした。そこへ御使いが現れます。

マタイ 28:5-6 「28:5 すると、御使いは女たちに言った。「恐れてはいけません。あなたがたが十字架につけられたイエスを捜しているのを、私は知っています。28:6 ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらんください。」

6節をもう一度：ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。

多くのキリスト教会では、イースターの日曜日に信者が教会に集まると、こんな風に挨拶します。「Christ is risen! (キリスト復活!)」

そして、それに対するお決まりの返事は「He is risen indeed! (実に復活!)」です。

キリストは実によみがえられたのです!

それが今日の私のメッセージのタイトルです:「キリストは確かによみがえられました!」これがキリスト教の福音の核心であり、キリスト・イエスは私たちの罪のために十字架で死なれ、その後死からよみがえられ、罪と死に対する勝利を証明されました。

マルコ 16:1- 「16:1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。」

5-7 節: 「16:5 それで、墓の中にはいったところ、真白な長い衣をまとった青年が右側にすわっているのが見えた。彼女たちは驚いた。16:6 青年は言った。「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められた所です。16:7 ですから行って、お弟子たちとペテロに、『イエスは、あなたがたより先にガラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます。』とそう言いなさい。」

それで彼女たちは行って、弟子たちにこの信じられないほどの知らせを話しました。

さらに多くの人々が、よみがえられたイエスに会いました。マルコ 16:12 – 「その後、彼らのうちのふたりがいなかのほうへ歩いていたり、イエスは別の姿でご自分を現わされた。」

この人々は、ルカの福音書 24 章に記されている二人の男で、彼らはエマオの町へ向かう道を歩いていました。イエスは彼らの旅に加わりましたが、彼らは食事の時間までイエスであることに気が付きませんでした。彼らはイエスであることを知った後、彼らは、弟子たちに話すために急いでエルサレムに戻りました。

ルカの 24:36-37 を読みましょう。 – 「24:36 これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。24:37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。」

41-43 節 – 「24:41 それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか。」と言われた。24:42 それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、24:43 イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。イエスは彼らの前で魚を食べました-幽霊や霊は物理的な食べ物を食べません。これは彼らに現れた幽霊ではありませんでした-これは死からの実際の物理的な復活でした。

キリストは本当によみがえられました！

他にも証人がいます。使徒パウロが I コリント人 15:3-8 「15:3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、15:4 また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、15:5 また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。15:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。15:7 その後、キリストはヤコブに現われ、それから使徒たち全部に現われました。15:8 そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現われてくださいました。」

私自身のクリスチャンの経験を少しお話ししましょう。わたしは教会に通って育ちました。しかし、10代の頃、私はクリスチャンのメッセージが真実かどうか疑問に思っていました。しかし、さまざまな問題を研究した後、私がとても感銘を受けたのは、復活に対するこれらの証人の証でした。これらの男女は見聞きしたことを宣言し、その多くは証を分かち合うために殉教者となりました。これらの人々はこのメッセージのために死ぬことをいとわなかった。わたしは彼らの証を信頼しており、この書物、すなわち聖書にも信頼を置いています。聖書は、私たちがどこから来たのか、なぜ私たちが今の状態にあるのか、解決策は何か、そして私たちの最終的に行きつく永遠はどのようなものになるのかを教えてください。聖書の証が真実であると確信するようになり、大学2年生のときに教会に招かれて進み、自分の人生をキリストにささげました。その日曜日はたまたまパームサンデーでした。私の新たに生まれた人生の最初の週は、パームサンデーとイースターの間の聖週の間の一連のクリスチャンの集会に行くことに費やされました。ですから、この期間は私にとって常に特別でした...二つの理由は、わたし自身の霊的な誕生日を記念することと、復活祭のお祝いが人類の歴史の中心的な出来事であり、福音のメッセージの核心を記念することです。これが私が今日、皆さんと分かち合いたい物語です：罪と死に対するキリストの勝利。

今も多くの教会で歌われている古い復活の讃美歌を、復活祭の日曜である今日紹介したいと思います。

キリスト死より復活し  
死を以て死を滅ぼし、  
墓に在る者に生命を賜へり

キリストは死から復活し…自らの死をもって死を滅ぼし、  
墓に在る者に生命を与えられた。

キリストが「自らの死をもって死を滅ぼす」とはどういうことでしょうか。この問いに答えるために、3つのポイントを挙げたいと思います。

### ポイント 1

人類は罪に堕ちました。アダムとエバが神に背き、禁じられていた実を食べるという選択をした話をご存じですね。創世記 2:16-17 で神はアダムに命じられました。

「2:16 神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。2:17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」」そして、彼らがその実を食べると、すぐに恥を感じ、神から身を隠そうとしました。この不従順が、創造主との関係に傷をつけました。そして、私たちは肉体的な死に直面するようになったのです。

イザヤ 59:2 「59:2 あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。」

ローマ 3:23 「3:23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」

私たち皆が罪を犯し、神から切り離されています。創造主から遠く離れ、創造主との関係が壊れてしまったのです。

## ポイント 2

御子イエス・キリストの十字架刑を通じて、神は私たちをご自分と和解させました。今日のメッセージの冒頭で、人類の歴史上最も重要な出来事は、主イエス・キリストの墓からの復活だとお話しました。もう少し違う言い方をすべきかもしれません。キリストの十字架刑とキリストの復活は、歴史上最も重要な出来事の第1幕と第2幕です。どちらか一方がなければ、もう一方は存在しません。十字架刑には、人類の罪の罰を受け、私たちの贖罪を買い取るために必要な犠牲であったキリストが、そして復活には、死を克服したことの証拠があります。

その十字架刑の必要性について見てみましょう。ヘブル 9:22 の後半にはこうあります 「...血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。」

次にペテロ第一 1:18-19 を見てみましょう。「1:18 ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、1:19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」

ヨハネの福音書 1:29 では、洗礼者ヨハネがイエスについてこう言っています。

「...『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』」イエスは「神の子羊」なのです。旧約聖書の制度では、いけにえを捧げるためには、傷や汚れのない子羊などの動物が必要でした。けれども当時のいけにえの制度は、すべてにおいて最も完全な子羊である神の子羊が最終的に犠牲になるまでの一時的なものだったのです。

ヘブル 10:1-4 を見てみましょう。

「10:1 律法には、後に来るすばらしいものの影はあっても、その実物はないのですから、律法は、年ごとに絶えずささげられる同じいけにえによって神に近づいて来る人々を、完全にすることができないのです。10:2 もしそれができたのであったら、礼拝する人々は、一度きよめられた者として、もはや罪を意識しなかったはずであり、したがって、ささげ物をするのは、やんだはずですが。10:3 ところがかえって、これらのささげ物によって、罪が年ごとに思い出されるのです。10:4 雄牛とやぎの血は、罪を除くことができません。」

3節をもう一度: これらのささげ物によって、罪が年ごとに思い出されるのです。

旧約聖書では、これらのいけにえは毎年罪を思い出させるものでした。しかし今や、いけにえの制度はキリストのただ一度だけの犠牲にあって完結したのです。

ヘブル 10:9-14 「10:9 また、「さあ、わたしはあなたのみこころを行うために来まし  
た」と言われたのです。後者[キリストのもとにある新しい契約]が立てられるために、前  
者[古い契約の犠牲]が廃止されるのです。10:10 このみこころに従って、イエス・キリス  
トのからだは、ただ一度だけささげられたことにより、私たちは聖なるものとされてい  
るのです。(10 節をもう一度：イエス・キリストのからだは、ただ一度だけささげられ  
たことにより、私たちは聖なるものとされているのです。) 10:11 また、すべて祭司は毎  
日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえをくり返しささげますが、それらは決して罪  
を除き去ることができません。10:12 しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のい  
けにえをささげて後、神の右の座に着き、10:13 それからは、その敵がご自分の足台と  
なるのを待っておられるのです。10:14 キリストは聖なるものとされる人々を、一つの  
ささげ物によって、永遠に全うされたのです。」

14 節をもう一度：キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永  
遠に全うされたのです。

イエス・キリストに信仰を置いた私たちが聖なる者とされるのは、キリストの犠牲によ  
るのです。

ローマ 3:24 と 25 節前半を見てみましょう。

「3:24 ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認  
められるのです。3:25 神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、な  
だめの供え物として、公にお示しになりました。....」

私たちが神の前で義と認められるのは、神の恵みによって、信仰を通して与えられたこ  
とです。信仰を通して、恵みによって。そして、キリスト・イエスにある贖いによっ  
てです。

NIV スタディーバイブルには、この部分がとても上手く記述されているので、引用して  
みたいと思います。

「パウロは『義とされる』というギリシャ語の動詞を使っているが、そのほとんどがロー  
ーマ人への手紙とガラテヤ人への手紙である...この言葉は、人々がキリストを救い主と  
して信じたときに起こることを説明している：神は否定的観点で彼らが無罪と宣言し、  
肯定的観点で彼らを義と宣言されるのである。神は罪の責任を取り消され、義を与えら  
れる。....」

イエスが十字架上で成し遂げたことには、大きな意義があります。それは、そのことで  
私たちと創造主との関係を回復してくださったからです。先ほど、十字架刑は人類史上  
最も重大な出来事の第一幕であり、キリストの復活はその第二幕であると言いました。  
復活がなければ、十字架刑の成したことは不完全となってしまいます。キリストが地上

に來られた目的は、私達を罪と罪の結果である死から救うことでした。十字架につけられた後、復活することによって、このことが達成されたのです。

先ほど「3つのポイントをお伝えしたい」と申し上げました。

**ポイント 1:** 人類は罪に墮ちた。

**ポイント 2:** 神は御子イエス・キリストの十字架刑を通して、私達を御自分と和解させた。

そして**ポイント 3:** キリストは復活によって死に勝利された。

先ほど紹介した古い讚美歌をもう一度見てみます。

キリスト死より復活し  
死を以て死を滅ぼし、  
墓に在る者に生命を賜へり

キリストが「自らの死によって死を滅ぼした」とはどういうことでしょうか。

この問いへの答えとすべく、先ほど、キリストの死が私達の罪のための犠牲であり、私達を神と和解させるものであると説明しました。私の好きな引用句の中から初代教会の教父の言葉を一つ紹介して、またこの問いへの答えとしましょう。

325年のニカイア公会議の英雄である聖アタナシオスは、イエス・キリストの完全な神性の教義を擁護していた人物です。「キリストは三位一体の第二位格であり、完全に神である。しかし同時に、キリストは人となられた、つまり完全に人間であった。」聖アタナシオスは「**On the Incarnation**(仮題:受肉)」という本を書き、神の子がどのように、そしてなぜ地上に来て人間の形を取ったのか（これが「受肉」の意味：人間の肉の形を取ることを）を概説しています。神の子がこのようなことをされた理由の一つは、人間の肉を取ることによってのみ、神は私達人間を贖うことができたからです。

そして、ここでご紹介したいのが、聖アタナシウスの有名な言葉です。

「想定されていないものは贖われていない」 *想定されていないものは、贖われていない。*

これはどういうことかということ、神が地上に来て人間の肉を取る（想定する）ことによってのみ、私達死すべき人間の肉を贖うことができたということです。エデンの園で、蛇がエバを誘惑して禁じられた実を食べさせ、それをアダムに与えたので、アダムも食べました。サタンは人類が神に背くように誘惑し、人類は罪と神から遠く離れることとなりました。

ローマ 5 章とコリント第一 15 章は、アダムとキリストを比較対照しています。アダムを通して、罪がこの世に入りました。第二のアダムであるキリストによって、彼に従う者は誰でも贖いを受けることができるようになったのです。

ローマ 5:12 「5:12 そういふわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。」罪と死がアダムの罪によって世に入り、アダムは人を代表するはじめの人であったので、全人類が罪と死に陥りました。

しかし、もう一人の人がここに登場します。15 節「5:15 ただし、恵みには違反の場合とは違ふ点があります。もしひとりの違反によって多くの人々が死んだとすれば、それにもまして、神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に満ちあふれるのです。」第二のアダムであるイエス・キリストを通した神の恵みにより、人類の問題に対処する方法が与えられたのです。

17 節「5:17 もしひとりの違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりのイエス・キリストにより、いのちにあつて支配するのです。」

アダムが犯した罪のために、死が支配しました。しかし、イエス・キリストによって、義の贈り物が提供されたのです。この言葉に注目してください:「恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々」-キリストと共に治め、このような益にあずかるためには、この貴重な賜物を受け取る必要があるのです。

18 節「こういふわけで、ちょうどひとりの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、ひとりの義の行為によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられるのです。」

「ひとりの義の行為によって」とは、キリストの十字架上の死か、死を含むキリストの完全なる従順な生涯のどちらかを指しています。アダムの違反によって、アダムの中にいるすべての人が罪に定められます（つまり、すべての人間が罪に定められるのです）。そして、キリストの義の行為によって、キリストにあるすべての人が義と認められるのです。最後に書かれている「すべての人」とは、すべての人類を意味するのではなく、キリストにあるすべての人、先ほど 17 節で見たように、提供された贈り物を受けたすべての人、キリストを信じる人たちを意味します。

コリント第一 15 章で、類似の節を見ることができます。

コリント第一 15:20-21 「15:20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。15:21 というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。」

アダムによって死が来ましたが、キリストによって死者の復活が来たのです。キリストは眠った者たち、死んだ人たちの「初穂」です。キリストは、死を経験した人の中で、

復活を経験した最初の人なのです。そして、キリストに従った死者たちも、キリストが彼らのために戻ってきたとき、同様に自分たちの復活を経験するのです。

これがキリストの復活から受ける約束であり、希望です。死に対する勝利、キリストが死によって死を滅ぼしたのです。だからこそ、復活はキリスト教の信仰に不可欠な教義なのです。この章の12節から19節にあるように、キリストの復活がなければ、希望もないし、意味のあるキリスト教のメッセージは存在しません。

20-21節に続いて22-23節も見てください。

「15:22 すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。15:23 しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。」ローマ5:17のところでも言ったように、「すべての人が生かされる」とは、人類すべてということではなく、キリストに属する者すべてという意味です。ここ23節では、キリストが初穂であり、その後、キリストに属する者たちが、キリストが最後に再臨されるときによみがえることが書かれています。

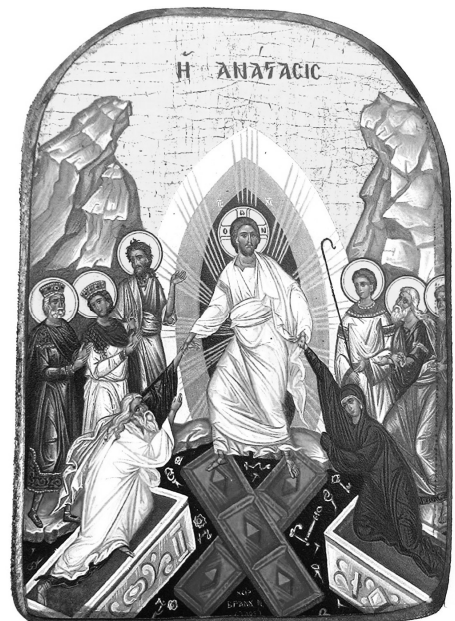
次は24-26節です。

「それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。15:25 キリストの支配は、すべての敵をその足の下に置くまで、と定められているからです。15:26 最後の敵である死も滅ぼされます。」

26節をもう一度: **最後の敵である死も滅ぼされます。**これが最後の勝利です。

このパワーポイントのスクリーンに、東方正教会の復活のイコンの写真を載せました。昨年メッセージでも紹介しましたが、復活祭の今日、もう一度紹介したいと思います。

よみがえられたキリストが壊れた墓に立ち、死に対するイエスの勝利を表しています。イエスはご自身が打ち壊したハデスの門に立ち、死を克服したことがわかります。2つの壊れた門が、十字の形になっているのがお分かりですか、それは、十字架が死に打ち勝つためにイエスが使った手段だったからです。そしてイエスはアダムとエバを墓から引き上げています。彼らは、禁じられていた実を食べる選択をしたことで人間を罪と死に陥れた二人の男女です。けれども今や死は打ち負かされ、信者たちは永遠のいのちの約束を受け取ります。





ではコリント第一に戻りましょう。35-37節です。

「ところが、ある人はこう言うでしょう。「死者は、どのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか。」36 愚かな人だ。あなたの蒔く物は、死ななければ、生かされません。37 あなたが蒔く物は、後にできるからだではなく、麦やそのほかの穀物の種粒です。」

これは興味深いですね。私たちはどのようなからだを手に入れるのでしょうか。パウロはここで、地面に植えられた種が死んでしまうという例えを用いています。先に死ななければ生かされません。それは私たちにも起こることです。私たちはそれぞれ死に、埋葬されます。しかし私たちの埋葬は、再び成長し健康な新しい植物に成長する種のようなものです。ここでもう少し読んで、私たちのからだという種が土に埋められた後、新しいのちによみがえるとはどういうことなのか、見出しましょう。

42-44節「15:42 死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらせ、15:43 卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらせ、弱いもので蒔かれ、強いものによみがえらせ、15:44 血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。」

私たちの古いからだは、ここで「朽ちるもの」と表現されています。そして「卑しいもので蒔かれ」とあります。「卑しいもの」という言葉を読むと、中年や老年になると体が衰え始めること.....あるいは、体が病気に侵されることを私は思い浮かべます。しかし、私たちのからだは栄光と力をもってよみがえります。私たちは「霊的なからだ」をもってよみがえるのです。「霊的なからだ」がどんなものかはよくわかりません。イエスが復活された後、閉ざされた扉を通り抜けられたような、そんなからだになっているのかもしれませんが。イエスは、きちんと認識できる体からだを持っていて、食べることもできました。霊的なからだを持つというのは、そういうことなのでしょうか。私自身が死んでから葬られ（土に蒔かれ）、最後によみがえった後に、答えを知るのが楽しみです。

コリント第一 15:51-53 節です。

「聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。53 朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならぬからです。」

最後のラッパが鳴るとき、ここで何が起こるかという、死者は朽ちない者によみがえります。...朽ちない者、です。私たちは一瞬のうちに変えられます。不死を着るのです。

これが、イエス・キリストが死と復活によって確保された勝利です。この勝利は、私たち、つまりキリストに信仰を置いた者もあずかるものです。

54-57節「しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた」としてされている（イザヤ 25:8、ホセア 13:14）、みことばが実現します。15:55「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」15:56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。15:57 しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。」

そして最後の 58 節「15:58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあつてむだでないことを知っているのですから。」

私たちは、信仰と労苦において堅固で揺り動かされることのないようにと励まされています。私たちは、主の働きにおいて抜きん出ているべきです。

最後に、主が私たちに与えてくださった働きについての一節を紹介しましょう。

コリント第二 5:18-19「5:18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。5:19 すなわち、神は、キリストにあつて、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。」

復活の日の今日、神が十字架上のキリストの犠牲によって私たちをご自分と和解させ、復活の中に見出す罪と死に対する勝利の約束を与えてくださったことをお伝えしてきました。コリント第二には、神が私たちに「和解の務め」を与えてくださったことが書かれています。私たちは、神と和解する方法についてのこのメッセージを他の人々、つまり、隣人、同僚、家族など、誰にでももたらすべきです。

20 節には私たちが「キリストの使節」である、とあります。私たちは王の使節であり、世の人々と分かち合うべき和解のメッセージを持っています。創造主との和解だけでなく、他者との和解です。私たちは皆、何らかの形で他人を傷つけることをしたことがあります。主の祈りや他の多くの聖句にあるように、互いを赦すことを忘れてはならないのです。

神と和解しましょう。互いに和解しましょう。創造主と和解する方法についてもっと聞きたい方は、礼拝後に私か他の教会員に話してください。もっと詳しく話し、一緒にお祈りしましょう。

では祈りで締めくくりましょう。